

令和元年8月30日

東海三県地盤沈下調査会

地盤沈下沈静化も、高まる自然災害に備えて継続的な観測・監視が必要 ～平成30年における濃尾平野の地盤沈下状況等とりまとめ～

東海三県地盤沈下調査会[※]は、令和元年8月22日に東海三県地盤沈下調査会 評議会を開催し、平成30年における濃尾平野の地盤沈下および地下水位の状況等についてとりまとめましたので、お知らせします。

※東海三県地盤沈下調査会とは、愛知県・岐阜県・三重県における地盤沈下の実態と原因の調査究明、および各関係機関相互の連絡調整をはかることを目的に、関係行政機関の職員および学識経験者をもって構成される組織である。

【主な概要】

- ・ 平成30年に水準測量を実施した水準点の総数は922点であり、年間1cm以上沈下した水準点は2点あったが各々単独であり、平成19年度以降、12年連続で沈下域は形成されなかった。
- ・ 最近5ヶ年（平成26年～平成30年）では、沈下しやすい軟弱な粘土層が厚く堆積している濃尾平野中西部に累積沈下量が大きい地域が分布しているものの、これらの地域でも沈下量は年間1cm程度と緩やかである。
- ・ 地下水位の経年的な傾向については、昭和50年代前半より回復（上昇）傾向に転じ低下・上昇を繰り返しながら、近年は横ばい傾向にある。
- ・ 当地域の地盤沈下は沈静化してきているが、自然災害の潜在的危険性が高い地域であるので、地盤沈下状況の観測・監視ならびに地盤沈下対策を継続して行う必要がある。

□ 配布資料：

- ・【概要資料】平成30年における濃尾平野の地盤沈下の状況

□ HP掲載資料：<http://www.cbr.mlit.go.jp/kisya/2019/08.htm>

- ・【別添1】平成30年における濃尾平野の地盤沈下の状況
- ・【別添2】地盤沈下等量線図

□ 配布先： 中部地方整備局記者クラブ

問い合わせ先：

東海三県地盤沈下調査会 事務局

- ・ 国土交通省 国土地理院 中部地方測量部 測量課 測量課長 なかがわ 中川 すぐる 俊
TEL：052-961-5646（直通）

- ・ 国土交通省 中部地方整備局 河川部 河川計画課 建設専門官 よしだ 吉田 みつのり 光則
TEL：052-953-8148（直通）

【概要資料】平成30年における濃尾平野の地盤沈下の状況

東海三県地盤沈下調査会

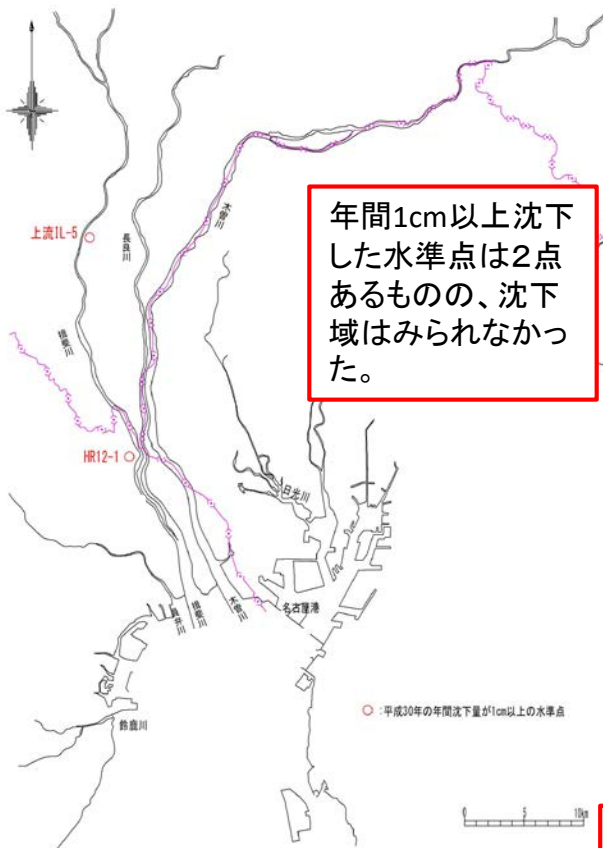
①地盤沈下の状況

平成30年に水準測量を実施した水準点の総数は922点であり、年間1cm以上沈下した水準点は2点あったが各々単独であり、平成19年度以降、12年連続で沈下域※は形成されなかった。

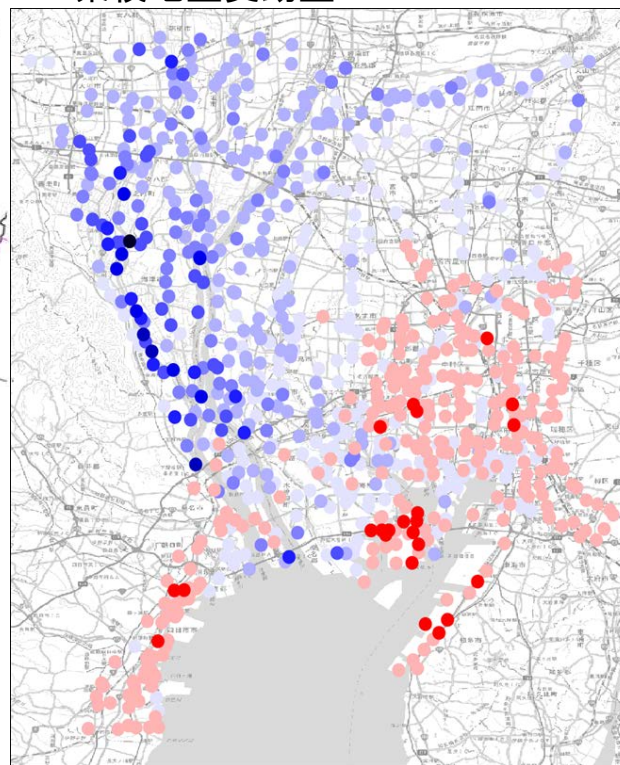
また、沈下しやすい軟弱な粘土層が厚く堆積している濃尾平野中西部に累積沈下量が大きい地域が分布しているものの、これらの地域でも沈下量は年間1cm程度と緩やかである。

※沈下域とは、年間沈下量が1cm以上の水準点が3点以上隣接する地域である。

■年間沈下量1cm以上の水準点

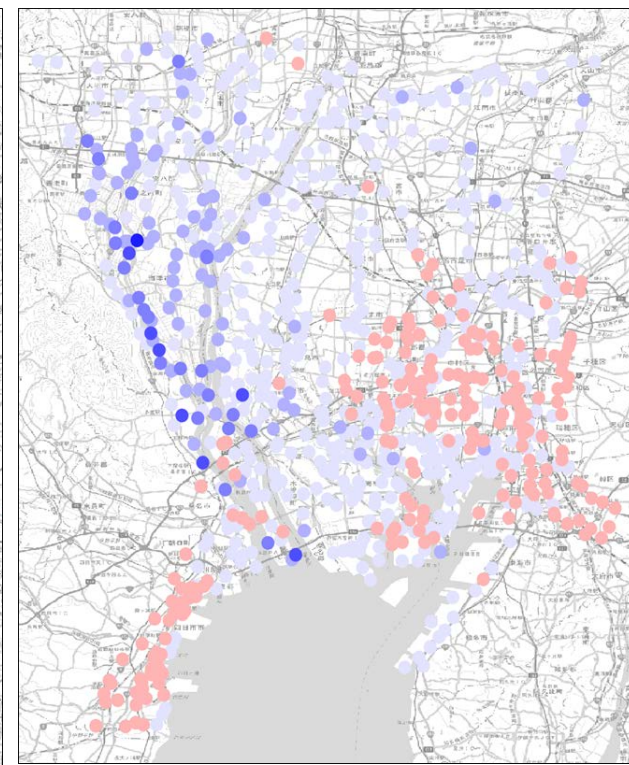


■累積地盤変動量



過去10年間(H20.11~H30.11)

過去10年では最大10cm程度、過去5年では最大4cm程度の累積沈下量を示しているが、年間沈下量は1cm程度と緩やかである。



過去5年間(H25.11~H30.11)



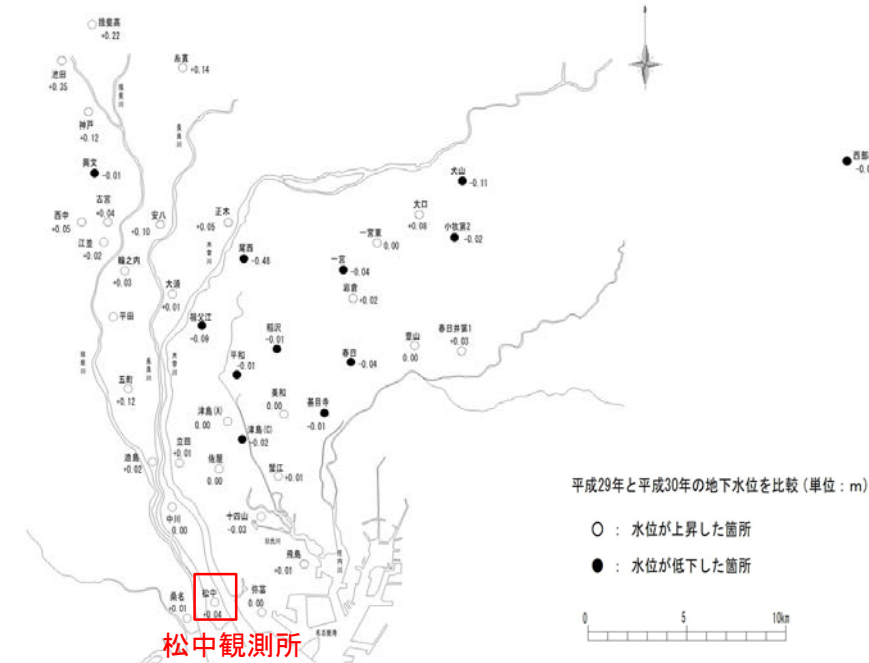
【概要資料】平成30年における濃尾平野の地盤沈下の状況

東海三県地盤沈下調査会

②地下水位の状況

平成30年は95箇所において地下水位を観測し、地下水位の経年的な傾向については、昭和50年代前半より回復(上昇)傾向に転じ低下・上昇を繰り返しながら、近年は横ばい傾向にある。

■年平均地下水位の変動量(第一礫層(G1))



■年平均地下水位の変動量(第二礫層(G2))

